

すみやどり

- 穂積駅周辺に広がるコミュニティ施設の提案 -

01 背景① - 暮らしの変化 -

みんなと過ごしていた昔

かつての暮らしは、家庭や学校といった明確な機能を持つ場に限られず、公園や商店街など、日常の動線上に多様な滞在の余地が存在し、人との緩やかな関係性が自然発生的に形成されていた。

共働き世帯の増加、コロナの流行

若者が個として過ごす時間が増えた今

現代では共働き世帯の増加により、家庭内でも家族で過ごす時間より個として過ごす時間が増えている。在宅ワークやオンライン授業で家にいても、生活のリズムはそれぞれ異なり、同じ空間にしながら別々の時間が流れている。だからこそ今、ふらっと立ち寄れる第三の居場所が求められているのではないだろうか。

背景② - 公共施設のあり方 -

ひらかれすぎない公共施設にするには

最近の公共施設では、地域に開くことが重視されがちである。しかし、開きすぎることによって落ちていく居場所としての役割が薄れているようにも感じる。今の時代に必要なのは、家のように個人で静かに過ごしながらも、周囲に人の気配を感じられる空間ではないだろうか。程よく閉じた安心感が、人を自然と引き寄せ、地域との緩やかなつながりを生み出すと考える。

02 対象敷地

■敷地：岐阜県瑞穂市
■人口：5,622人





穂積駅から徒歩 5 分
(2025 年)

岐阜県

瑞穂市

岐阜市

愛知県名古屋市

穂積駅は、名古屋・岐阜方面へのアクセスも便利のため、通勤・通学時の動線として利用される地点にある。

良い点

- ・都会と田舎のバランスがとれており、子育て世帯に人気がある。
- ・2006 年から 2025 年にかけて児童数が 4 %増加している。
- ・豊かな自然と落ち着いた住宅地が、日常に穏やかな時間と安心感をもたらしている。

悪い点

- ・駅利用者の多くは車を用いるため、朝夕の時間帯は車の往来が多い一方、人通りは比較的小さい。
- ・周辺には 1〜3 階建ての低層建物が中心で、高層建築は見られず、住宅や駐車場が点在している。
- ・駅前ながら滞在用途のある施設が不足している状況である。



03 若者の第 3 の居場所に関する実態調査

対象敷地から半径 1 km 以内の学校にてアンケートを行った。

■アンケート期間：2025 年 7 月中旬～ 8 月上旬

■調査方法

WEB アンケート (Google フォーム)

■対象者

穂積小学校：5、6 年生

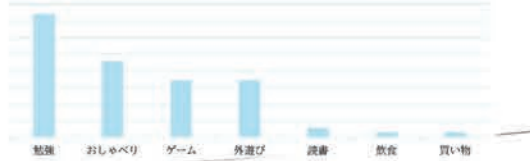
穂積中学校：中学 3 年生

■アンケート内容

放課後の過ごし方、駅の利用頻度、習い事について、家と学校以外にどこを利用しているかなど、15 問程度

■有効回答数：76 件

家や学校以外の場所で放課後何をしていますか？



家や学校以外の場所を放課後どのくらいの頻度で利用するときが一番多いですか？



04 コンセプト

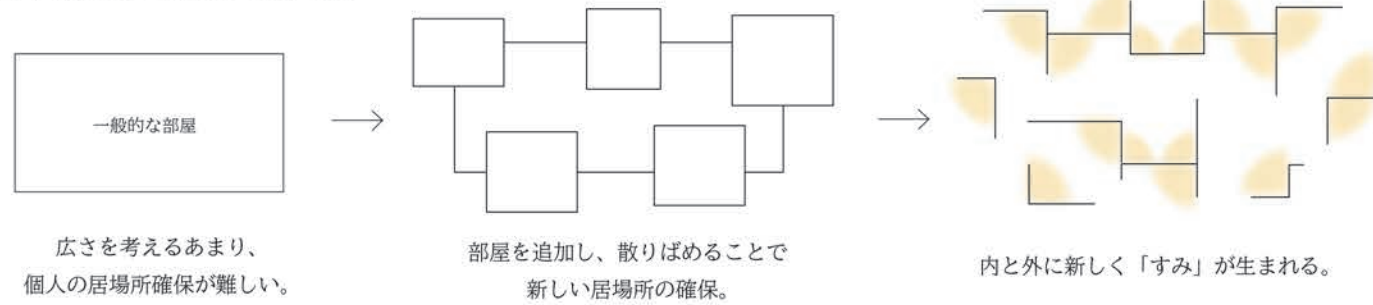
■「すみ」の効果

本提案では「すみ」に着目した。人は心理的に空間の隅に安心感を覚え、自然と集まる性質をもつ。その特性を空間構成に取り入れ、個人の居場所を確保しつつ人の気配を感じられる施設を計画する。

駅前という開かれやすい立地において、あえて全面的に開放せず、内と外関係を丁寧に整えることで、若者が心理的に落ち着けるコミュニティ施設の居場所をつくる。



■平面での「すみ」の作り方



08 すみページライブラリー

すみページライブラリーには、本のページをめくるように気持ちが切り替わる、5つの「すみ」がある。壁の角度やし字壁、段差といった建築的な操作によって、閉じすぎず、開きすぎない居場所を作った。

めくりすみ

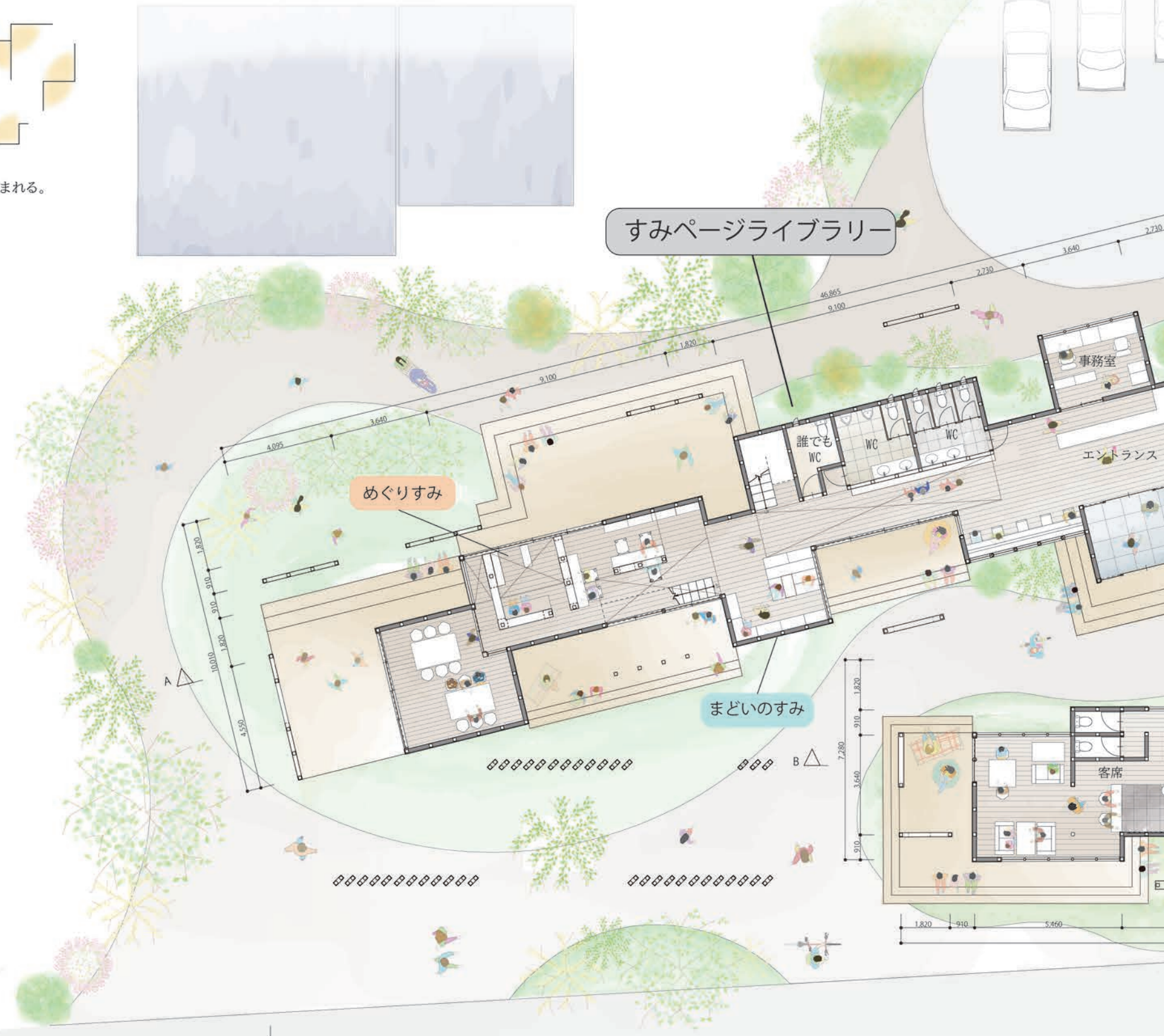
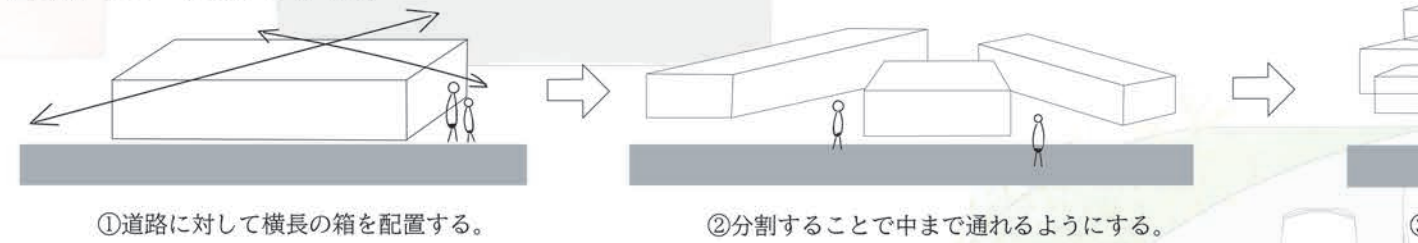


つどいすみ



05 ダイアグラム

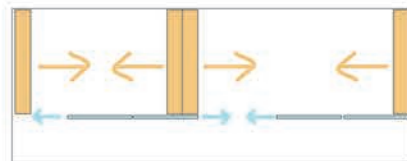
■立体での「すみ」の作り方





くみかえすみ

L字壁で区切られた空間は、用途に応じて形を変えられる。少人数から個室的な使い方まで自由に部屋をつくることができる。



めぐりすみ

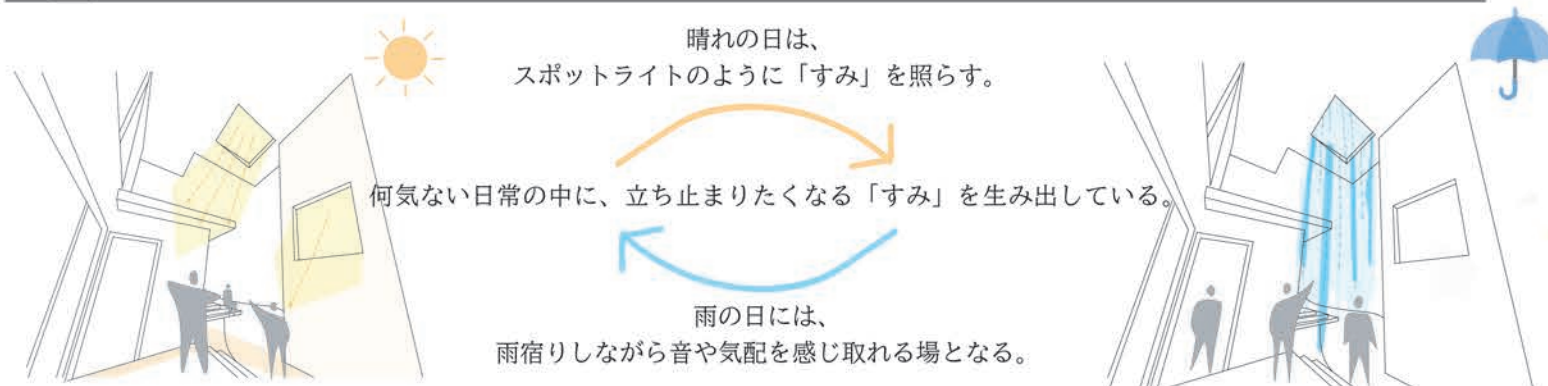
それぞれが別々に過ごしながらも、同じ場を共有する居場所



まどいのすみ

本棚によって、ほどよく包まれたすみ

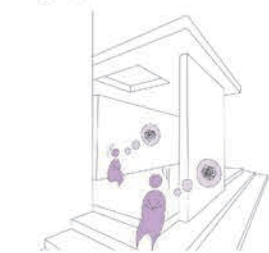
11 「すみ」の効果と変化の楽しみ方



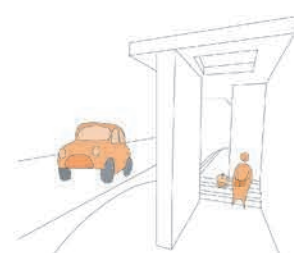
スマホを閉じて景色を眺めたいとき



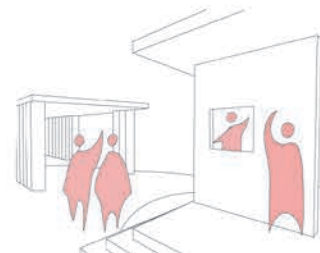
雨の日の寄り道



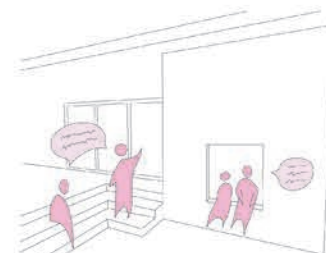
泣くほどじゃないけど元気ない日



親の迎えを待つ10分間



友達との待ち合わせ



誰かと話したいとき

12 時間とともに変化する影環境



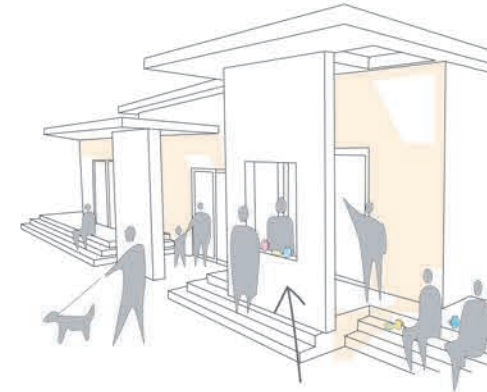
時間帯で変わる光と影が、内と外の間を切り替えながら「すみ」の居場所を浮かび



東側立面図 1 : 1 0 0

2 F 平面図

道路沿いに面しているため、まちに向かってひらかれた存在でありながら、奥へ進むと落ち着いて過ごせる、にぎわいとくつろぎがほどよく共存する空間である。



L字壁の開口はテーブルにもなり、「すみ」で新たな交流へ



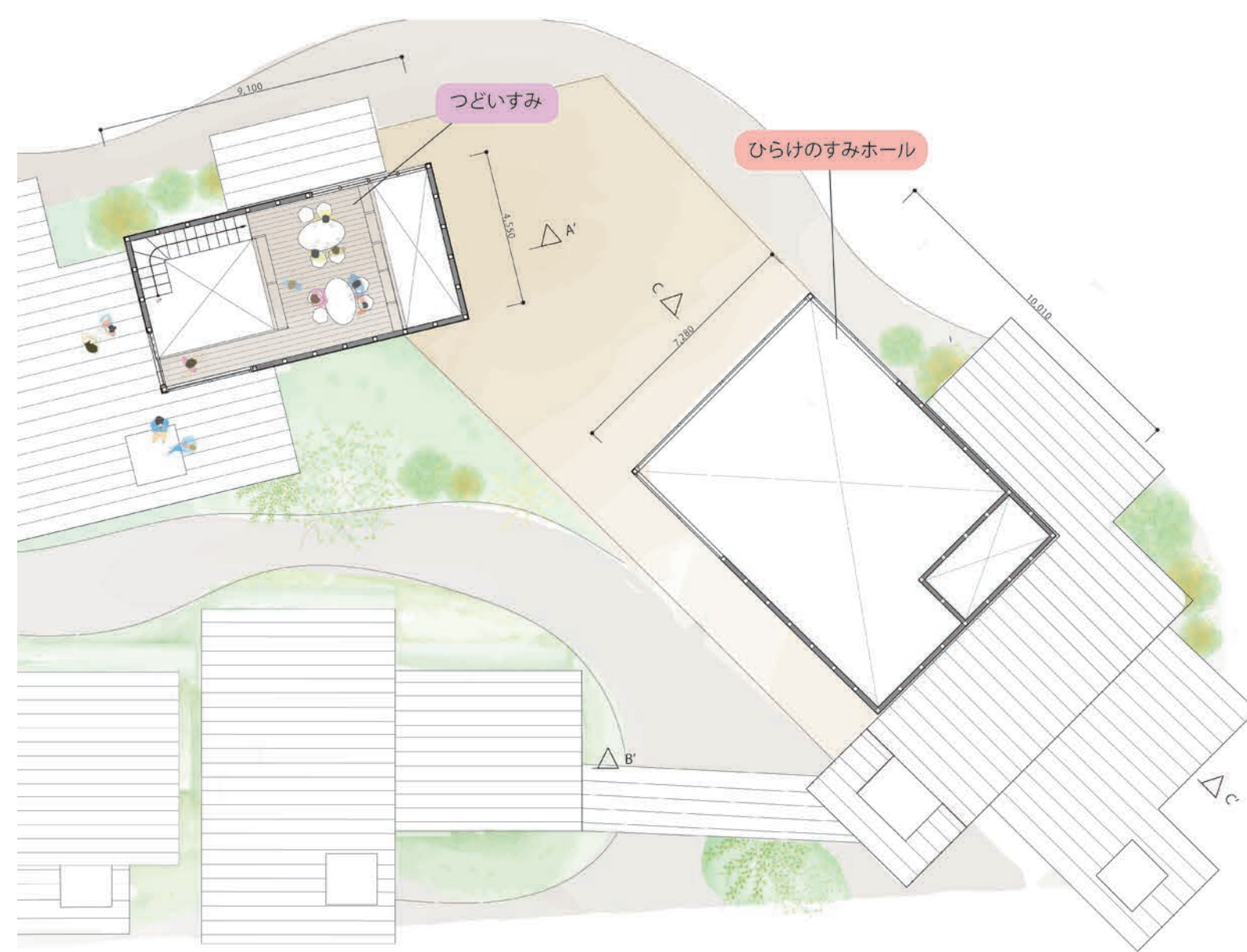
カフェカウンター



L字壁により、外とのほどよい距離感



カフェ客席



1:100



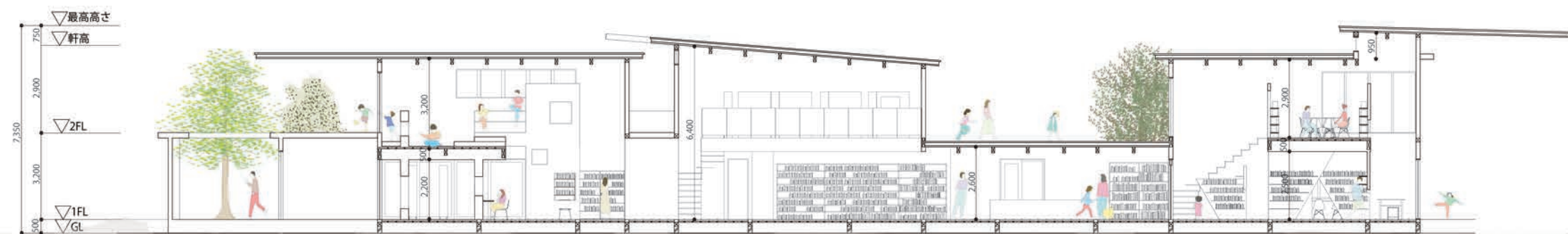
上がらせる。



すみばカフェ 断面図B-B' 1:100



すみっこホール 断面図C-C' 1:100



すみページライブラリー 断面図A-A' 1:100